

1. 1月全国行事
1) 年末年始無災害運動 12月15日～1月15日
2. 安全・衛生・防災の心得 : 12月(年末)の安全・衛生・防災心得
3. 安全衛生巡視 良い事例(抜粋)
4. 事故・災害事例から : 修理材料を持って脚立から転落死亡
5. ヒヤリハット事例 : 靴に粘着マットがくっついて、転びそうになった

2. 安全・衛生・防災の心得 : 12月(年末)の安全・衛生・防災心得
～要注意「非常作業」の増加～

年末は、納期に追われた急ぎの作業や年末・年始休業に備えた4S、機械・設備の点検・整備と言った「非常作業」等が増加し、事故や災害のリスクが高くなります。

我が国の労働災害は長期的には減少傾向をたどってきましたが、高齢化の進展や産業・就業構造の変化などを背景に増加傾向となり今年も昨年同様に前年同期比7%増で推移しています。

最近の死傷災害で目立つのは、「転倒」「墜落・転落」「腰痛」などです。12月は寒冷期特有の災害や疾病のリスクも高まるため、特に次の事項の徹底を図り、万全の安全・衛生の管理体制を築きましょう。

- ①忙しいからと、作業手順等を省略しない。
- ②年末の4Sは、日常作業の中で順次実施する。
- ③機械、設備の点検や整備も、後回しにしないで、決められた通りその都度実施する。
- ④非常作業等は、作業前に段取りや安全対策を十分検討して確認し、慎重に行う。
- ⑤TBM(作業前ミーティング)、KYK(危険予知活動)等は普段以上にしっかり行う。
- ⑥出勤や業務での車の運転は、時間に余裕を持たせ安全運転を励行する。
- ⑦油ポロ等の自然発火防止、放火防止など、年末年始休業時の火災防止対策を厳重に行う。
- ⑧暴飲暴食、夜更かし、風邪などに気をつけ、健康管理を徹底する・・・など。



3. 安全衛生巡視 良い事例(抜粋)

● 福山工場

・狭小敷地の制約がある中で、トラックヤード上部に新設した休憩室等工夫したレイアウトを行い運営している。



● 仙台工場

・過去の労災発生場所の表示や関連会社の労災情報を公開し注意喚起を行っていました。



4. 事故・災害事例から： 他社災害事例 修理材料を持って脚立から転落死亡
 ～1. 3メートル高さの踏み棧(ふみさん)を踏み外した～

(1) 災害のあらまし

修理が終わった排気ダクトを乾燥機に取り付けるため、ダクトとスパナを持って脚立(2メートル)を上っていた被災者(65歳)が1.5メートルの高さの踏み棧を踏み外して後ろ向きに転落した際、保護帽が脱げ、床面に頭部を強打し、後日脳挫傷で死亡しました。

(2) 災害の主な原因

- ①ダクトや工具を手にもって脚立を上っていたため、棧を踏み外した際にバランスを失って頭から転落したこと。
- ②保護帽をきちんと着用していなかったこと。
- ③被災者はこの作業について監督者等への報告もなく、独断で行っていたこと、など。

(3) 同種災害の防止対策 例

- ①物を手に持って脚立等の昇降をしないことを再教育し、徹底を図る。
- ②墜落・転落の恐れがある作業では、保護帽をきちんと着用する(させる)。
- ③転落等の危険が予測される作業では、事前に関係者と作業方法等の打合せを行う。また、一人作業は行わない(行わせない)。
- ④特に高齢者の墜落・転落等の危険を伴う作業については、加齢に伴う心身機能の低下を本人も認識して、適切な作業方法・安全対策等を実施する。
- ⑤状況から頭部の強打が推測されるときは、病院で診察・治療を受ける(受けさせる)、など。



墜落・転落災害

(4) 環境安全部から

- ①脚立を使用する際は、補助者がはしごをしっかりと支えて、安定させていればバランスを失うことも転落をする可能性も少なくなります。
- ②万が一転落しても保護帽をきちんと着用していれば、転落の際も保護帽が脱げることもなく、ケガも低減されたと考えられます。

5. ヒヤリハット事例

・事業場より提出されたヒヤリハットです。危険予知活動に利用してください。

いつ	朝のミーティング後
どこで	工場入り口で
何をしている時に	粘着マットを移動している時
どうなった	靴に粘着マットがくっついて、転びそうになった